



金沢愛児園
2022年2月号

寒さが一段と増してきました。2月の節分には季節を分けるという意味があります。また、季節の変わり目には体調を崩しやすいので、気をつけるという意味もあります。毎日の食事では栄養のあるものを食べて寒さを乗り切りましょう。

春の七草に触れました！

1/7のおやつは七草粥ということで、午前中に各クラスで実物の七草を見る機会を作りました。

- たんぼぼ組…七草はまだ難しいため、すすな（かぶ）のみ触りました。「大きなかぶ」のパネルシアターを見た後だったので興味を持ち、積極的に触っていました。
- すみれ組…すすなとすすしろ（だいこん）は身近な野菜ということもあり、喜んで触っていました。七草についてはまだ難しいようでしたが、知らせることができました。
- ちゅうりっぷ組…名前を繰り返し言ってみたり、葉の違いを確認することができました。おやつの中にはおかわりする子もたくさんいました。
- もも組…見せながら名前を伝えると覚えようとする子がたくさんいました。おやつの中には「これははこべらかな？」と確認しながら楽しんで食べることができました。
- さくら組…見せながら名前を伝えました。合わせて「お正月でごちそう三昧だったおなかを休ませるために七草粥を食べる」ことを伝え、七草について知ることができました。

こんにゃく・かまぼこの提供についてのお知らせ

1歳児クラス以下は小さく刻んでも窒息の危険があるということから、弾力のあるこんにゃく・かまぼこにつきましてつぼみ組・たんぼぼ組では提供をしないことにいたしました。窒息事故防止のため提供できない食材が増えてきておりますが、メニューのバリエーションや食経験が乏しくならないように努めてまいります。

誤嚥や窒息のおそれがある食品に注意



煎り大豆・ナッツ、飴、グミ、こんにゃく入りゼリー、団子類、ドーナツ

一般的におやつとなる食べ物の中には、子どもにとって危険なものがあります。特に事故が多い、ナッツや硬い豆については、2021年1月には、消費者庁が「5歳以下の子どもには食べさせないで」と、注意を喚起する年齢を3歳から5歳に引き上げました。

小さな子どもは、のどが狭く、飲み込んだり吐き出したりする力が弱いため、口に入れたもので、のどを詰まらせ、誤嚥や窒息を起こすことがあります。事故の原因は、食べものの形状だけでなく、子どもの「食べ方」や「行動」が原因になることもあります。安全な食環境の中で、子どもにとって最適な食体験ができるように配慮しましょう。また、3歳の子どもの口の大きさは直径約4cm。これより小さいものは子どもの口にすっぽり入り、どんなものでも窒息の原因になる危険があります。

★「安全な食環境」とは…



食事に集中できるよう、「あいさつ」をしっかりと区切りをつける



正しい姿勢で座る



立っている時は食べない



口に入れたまま話さない



ながら食べをしない



水やお茶を飲んで喉を湿らせる



車の中では食べない（揺れ・急停車）



子どもだけで食事をさせない特に「きょうだい」に注意

